



January 2022

ぜんほきょう

1
No.345



新春挨拶 後藤 茂之 厚生労働大臣 02

特集 新春対談「新たな時代における保育所・認定こども園等を考える」 03

対談 秋田 喜代美 氏 (学習院大学文学部 教授) × 奥村 尚三 (全国保育協議会 会長)

保育ネットワーク

社会福祉法人 せんねん村 中野郷保育園 (愛知県西尾市)

保護者のニーズに寄り添った保育の実践 08

保育者が知っておきたい 防災・減災対策 (第10回) .. 10

- “消防計画” から考える防災対策

風通しのよい快適な園づくりに向けて
ハラスメントの予防と解決 (第10回) 11

- 子どもに対する言葉かけの工夫

国の動き 12

ぜんほきょうの動き 12

公立保育所・公立認定こども園の動き

松前町立松前ひまわり保育所 (愛媛県伊予郡松前町) 14

- 配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて
～踏み出す一歩が 未来につながる～

保育現場における事故予防の実践 (第10回) 16

- 頻発事故への予防の提案と実践②～応急処置と心肺蘇生法～

保護者のニーズに寄り添った保育の実践

社会福祉法人 せんねん村 中野郷保育園 (愛知県西尾市)

中野郷保育園は、公立の保育園として1975年に開設されました。その後、民営化に向けた公募があり、特別養護老人ホーム・ケアハウスなどの介護施設を運営する社会福祉法人 せんねん村が応募。2006年から同園の運営を開始しました。西尾市には、自動車工場など外国籍の方が働くことができる場所が多く、とくにブラジルやベトナム出身の方が多く住んでいます。そのため、同園には外国籍の園児も多く在籍しています。八ツ面山近くの、田んぼや住宅に囲まれたのどかな環境に建つ同園で、0歳～5歳の園児93名がすくすくと成長しています。

カテゴリⅡ 子育て家庭を支える

⑧子どもを生み育てることの不安を解消するための機能を発揮します。

きめ細かなサポートで保護者も安心できる環境を提供

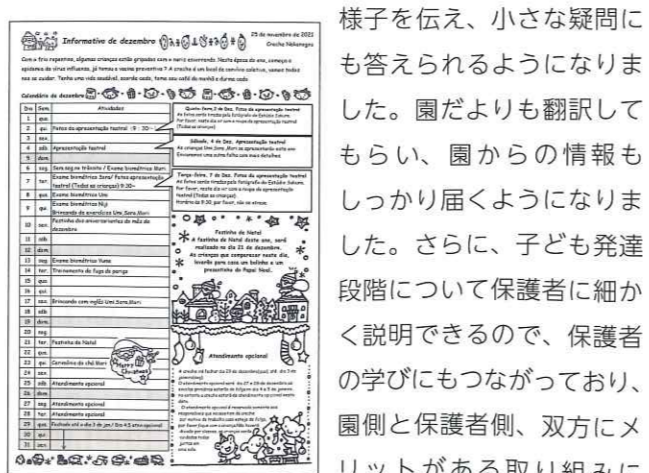
「子どもが今を幸せに生きて、遊んで、学んで、望ましい未来をつくるための力を養う」を理念に掲げる同園。0～1歳児のクラスはひとクラス10人までの少人数制を採用しており、子ども一人ひとりと向き合い、家庭的な雰囲気の中で保育することを大切にしています。同園では、子どもたちと保護者をきめ細かくサポートするために、さまざまな取り組みを行っています。その一つが市から委託され、2008年に開設した「病後児保育室」です。法人理事長が医療法人も運営しているため、病院との連携が取れる保育園ということで、西尾市より委託され、開設されました。病後児保育をするうえで意識して

いることは、子どもと保護者の不安な気持ちを和らげること。病気で体調が悪いなか、初めて保育園に来る子どももいるため、お気に入りのおもちゃを持ってきてもらい、看護師や保育士が一对一で向き合うことで

家庭と同じように過ごせる環境をつくることを心がけています。また、保護者には子どもの様子を細かく報告。預けるときは泣いていても、お迎えのころには笑顔で遊んでいる子どもが多く、利用者からは、「また利用したい」と、言ってもらえることが多いそうです。「ひとり親家庭の方や、近くにサポートしてくれる家族がない保護者に安心できる場所を提供することで支援したい」と鈴木裕江園長は話します。

また、同園ではブラジル国籍の子どもや保護者をサポートするために、週3日ポルトガル語の通訳を雇っています。通訳を雇う前は、文化の違いを埋める手立てがなく、日本の保育のやり方を理解してもらうのに苦労していました。たとえば「昼寝の時にトントンしたよ」という言葉を聞いて、叩かれたと誤解してしまった保護者もいたといいます。子ども同士のけんかの内容も細かく説明できず、コミュニケーション不足から生まれるトラブルもあったそうです。通訳がいることで、普段から子どもの様子を伝え、小さな疑問にも

答えられるようになりました。園だよりも翻訳してもらい、園からの情報もしっかり届くようになりました。さらに、子ども発達段階について保護者に細かく説明できるので、保護者の学びにもつながっており、園側と保護者側、双方にメリットがある取り組みになっているそうです。



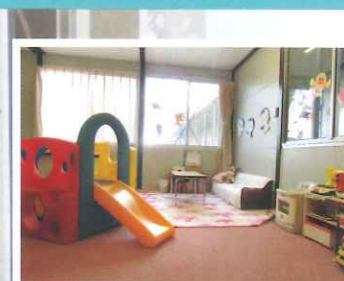
「園だより」もポルトガル語に翻訳して配布



保護者とのコミュニケーションを円滑にしてくれるポルトガル語通訳



「病後児保育室」では子どもと一对一でゆったりと向き合う



家庭的な雰囲気
「病後児保育



誕生日会を
保育内容を保育士の想いととも
に写真で紹介するポ
ートフォリオ



「緑日ごっこ」の様子を動画で配信

カテゴリⅡ 子育て家庭を支える

⑨家庭との密接な連携による子育て支援に努め、子育てにも取り組めます。

ICTを活用した情報配信で保護者の安心感を高める

もうひとつ、同園が力を入れているのが、ICTを活用した情報配信です。コロナ禍になり、行事の中止や縮小が続ぎ、保護者に園での様子を見てもらう機会がなくなりました。そこで、子どもたちの姿や成長を見てもらうために始めたのが、「連絡帳の電子化」「ポートフォリオ作成」「動画配信」の3つの取り組みです。

これまでの紙のノートの連絡帳を廃止し、スマートフォンアプリの連絡帳に変更。出欠やお迎え時間の連絡が手軽にできるうえに、写真も送ることができるなど、便利な機能が多数あります。アプリを入れれば、家族全員が

園からの連絡を確認できるため、情報共有がしやすいというメリットもあります。保護者に連絡帳アプリに関するアンケートを実施したところ、満足度は90%と好評だったといいます。

また、保育内容をポートフォリオにまとめて掲示し、連絡帳アプリに配信する取り組みも実施。さらに、運動会などの行事や普段の保育の様子を撮影し、会員制のアプリで動画配信も行っています。「子どもたちの普段の何気ない様子を見てもらうことで、子どもの成長・発達への理解も深まっているように感じます。また、情報を配信することで、保護者から保育士への声かけが多くなるなど、会話のきっかけにもなっているんです」と鈴木園長。一番大事なことは情報を配信することで安心してもらうこと。園への信頼感も高まっているため、コロナ禍が落ち着いてからもこれらの取り組みを続けていきたいと考えているそうです。

今回お伺いしたのは 社会福祉法人 せんねん村 中野郷保育園 (愛知県西尾市)

施設基礎データ (令和3年12月1日現在)

定員	90名 (現員: 93名) 0歳児9名、1歳児20名、2歳児16名、3歳児20名、 4歳児9名、5歳児19名
職員	29名/園長1名、主任保育士1名、保育士22名、調理員2名、 看護師2名、通訳1名
事業	延長保育、病後児保育、保育所地域活動



※本文中の「カテゴリ」および丸数字は、「全保協の将来ビジョン」に基づき、関連のある項目を記載しています。「全保協の将来ビジョン」は全保協ホームページをご覧ください。